

## 「市民、平成の棄民状態」

### 田中議員 南相馬市に救援物資

兵庫8区(尼崎市)に選出の田中康夫・衆院議員(54)が今月19日から21日まで、東京電力福島第1原子力発電所から半径30キロ圏内にある福島県南相馬市を訪れ、救援物資を届けた。放射線による影響を恐れて、物資がなかなか届かず、多くの住民が食料不足を訴えていたという。田中議員は「食料や物資を自己調達せよ」というのは第二次世界大戦時の硫黄島と同じ。市民は平成の棄民状態

に置かれている」と話す。南相馬市は、同県太平洋沿岸部にあり、死者約300人、行方不明者約1200人の被害が出ている。同市では、同原発から半径20キロ圏内には避難指示、同20〜30キロ圏内には自主避難が勧告されており、行方不明者の捜索も十分に進んでいない。

田中議員は、阪神大震災(95年)の時、原付きバイクで救援物資を配るボランティアをした経験がある。今月19日夜、国民新



南相馬市の避難所で、物資を配布する田中康夫氏(左端)  
—田中氏提供

党の下地幹郎衆院議員と共に、ミネラルウォーターなどの物資を積み、東京から仙台経由で南相馬市へ向かった。風呂に入れない被災者のために、養生堂

から提供を受けたドラッグストアも積み込んで、温かい食事が取れないなかった。

20日昼から南相馬市に入り、避難所を回って支援物資を配り、炊き出しを行った。同市の桜井勝延市長とも面会。桜井市長は「東京電力からは、電話一本でいい」と話しているという。現地では放射線の不安から物流が滞り、避難所での食事は冷たいおにぎりなどで、温かい食事が取れないなかった。

阪神間の住民ができることについて、田中氏は「信頼できるボランティア団体やNPOに寄付し、現地でもいい方法。誰もがそれぞれできることを、できる場所、できる限りやることが大切」と話した。【大沢瑞季】